

例会日：毎週木曜日 12 時 30 分
 例会場：岐阜県郡上市八幡町小野 67(八幡建設 2F)
 TEL (0575) 67-0314 FAX (0575) 67-0005
 E-mail:rc-8man@abeam.ocn.ne.jp
 URL:http://gujohachiman-rc.com/

会 長 : 岩尾 誠
 副 会 長 : 水上成樹
 幹 事 : 三原慎也
 公共イメージ : 西川 昇
 会報担当者 : 長尾信幸・河合和也

2020 年度国際ロータリー会長：ホルガー・クナーク (Herzogtum Lauenburg-Mölln ロータークラブ・ドイツ)

2020 年度国際ロータリーテーマ：Rotary Opens Opportunities(ロータリーは機会の扉を開く)

<本日のプログラム>

第 2677 回 令和 2 年 8 月 20 日 第 3 木曜日
 公式訪問代替 ガバナーメッセージビデオ

<次回の予定>

第 2678 回 令和 2 年 8 月 27 日 第 4 木曜日
 会員増強卓話 竹内巧治会員

<前回の記録>

第 2675 回 令和 2 年 8 月 6 日 木曜日
 物故者法要 法音寺 渡辺義彰様

司 会 進 行 國田大雄副 SAA
 点 鐘 岩尾 誠会長
 ソ ン グ 国歌「君が代」・奉仕の理想
 情報 の 時 間 林 健吉情報担当責任者

「ロータリーの目的」朗読
 「四つのテスト」唱和

来 客 紹 介 三原慎也幹事
 ・法音寺 渡辺義彰様
 ・郡上長良川 RC 小島正則様



GTMのご案内
 9月6日(日)
 オンラインにて開催

8 月のお祝 廣瀬泰輔親睦委員長
 婦人誕生日

7 日 大畑敏子様 22 日 川井美恵子様
 24 日 竹内眞理子様 30 日 和田ひろみ様

1 分間スピーチ 竹内巧治会員



結婚してもう 30 数年になりますが、最近では妻の名前を呼ぶことがありません。2 年前に娘の結婚式があった時、最後に挨拶があったのですが、妻の名前が出て来なくて頭が真っ白になりました。孫が生まれてからは、お互いを「じいじ」・「ばあば」と呼んだりするので、ますます名前を呼ぶことがなくなり、これではいけないなと思っています。

新会員入会式 岩尾 誠会長



新会員紹介 田中義久君

生年月日：昭和 32 年 9 月 28 日
 事業所：田中茶舗
 地位：店主
 職業分類：製茶卸小売業
 趣味：地域巡り・歴史探訪
 血液型：A 型
 家族構成：妻 史月(S34.9.1)

物故者法要

法音寺 郡上八幡支院 渡辺義彰様による読経



出席報告 大川達也出席担当責任者

会員数	出席	補正	出席合計	出席率
38名(免除1名)	31名	5名	36名	97.3%

ニコBOX 山下友幸ニコBOX担当責任者

- ・田中君 入会おめでとうございます。法音寺 渡辺様宜しくお祈りします。 岩尾 誠
- ・本日入会1回目の出席です。どうか末永くよろしくお祈り致します。 田中義久
- ・田中義久君の入会を大歓迎します。 河合 修
- ・先週は歓迎会をありがとうございました。 遠藤一史
- ・夫人誕生日のお祝をありがとう。

川井昭司・竹内巧治

- ・田中義久君 入会おめでとうございます。本日の物故者法要、法音寺 渡辺様宜しくお祈りします。

畑中伸夫・羽田野優男・林 健吉・廣瀬泰輔
岩出明喜・可児一彦・河合和也・川井昭司
國田大雄・松本英樹・松森 薫・松良 努
三原慎也・水上成樹・森下 光・村土時男
長尾信幸・西村 肇・野田三津雄・小笠原正道
大川達也・酒井智義・坂本 仁・竹内巧治
田代東次郎・渡邊 剛・山下友幸・澤崎 茂

幹事報告 三原慎也幹事

- ・米山記念奨学会より普通寄付金申告用領収証受付開始のお知らせ
- ・ガバナー事務所より、新型コロナウイルス感染症に対する友事務所対応の件 8報
- ・ガバナー事務所よりガバナー月信電子配信のご案内
- ・ガバナー事務所より、日本のロータリー100周年を祝う会、記念式典・祝賀会開催日程について(開催延期)と記念切手発行のお知らせ
- ・ガバナー事務所より 2020年7月福岡豪雨災害義援金ご協力をお願い
- ・ガバナー事務所、ガバナーエレクト事務所より夏期休暇のお知らせ
- ・郡上長良川RCより例会場変更のお知らせ
- ・可児、美濃加茂 各RCより例会休会のお知らせ<拝受>
- ・郡上市役所より「広報 郡上」8月号

委員会報告 國田大雄広報担当責任者

郡上八幡RC facebook 開設のお知らせ

会長の時間 岩尾 誠 会長



先ほどの物故者法要では、私が知っている3人の故人の方を思い出していました。特に和田詠伸君は、ロータリー活動にも熱心で、まだ若い子供さんを残しての急死だっただけに、さぞかし無念だったと思います。思い出のある方が亡くなっていかれることは寂しいことですが、皆さんと一つの空間

を共有してお勤めができたことは有難いことだと思っています。この後は、法音寺様の講話です。よろしくお祈りします。

講話 法音寺郡上八幡支院 渡辺義彰様



皆様、暑い中をご苦労様です。私もこちらにご縁を結んで頂いて、早いもので10年が経ちました。お釈迦様は、私達の一生は瞬きだと言われたそうです。そう思うとたかが一生かもしれませんが、やはり、されど人生です。私などは、好き嫌いや損得を考えてやってきましたが、なかなか思うようにならないと改めて思います。お釈迦様は、「諸行は無常にして 是れ生滅の法なり」とおっしゃいました。全てのものは移り変わっていくので、何一つとして確かなものはないということです。少し後ろ向きな気もしますが、そう言われるとそれもそうだなと思います。仏教では、不動心という言葉がよく出てきます。少々のご心で心を動かさない、乱さないということですが、言うは易しで、私なんかはしょっちゅう動きっぱなしです。

今回の新型コロナウイルス感染症ですが、ソーシャルディスタンスあるいはステイホーム、クラスター、パンデミックなど耳慣れない横文字がたくさん出てきますが、あまり馴染みがないので他人事のように思っていました。一体ウイルスはどこにいるのか、いつまでいるのか、薬は？ワクチンは？と世界中が大混乱の様相です。平成の世は、災害の時代と言われました。5年ごとに大きな災害が次々に起きたと言われています。昨年、令和という新しい元号になりました。「初春の令月にして、気淑く風和らぐ」という言葉で表されました。でも年が明けてみると、初春の令月とは言いましても、気重く、風益々厳しと思うのは私だけかなと思っているのですが。想定外という言葉が度々飛び交います。私がこの言葉を初めて聞いたのは50年前です。まだ二十歳くらいの時ですが、私の友人ができたばかりの阪神高速で車を飛ばしていました。そうしたら、パトカーに追尾され、パトカーだと思ってアクセルを踏んだら、パトカーが見えなくなりました。友人にしたらいつものことだったそうです。自分の家の近くの出口で高速を降りようとしたら、パトカーが20台、ハの字型に通行止めをされていて、そこで友人は捕まってしまいました。これは一体何ですかと聞くと、そういうお前は何者だ、今の自分のスピードが分かっているのか、阪神高速130kmのスピードオーバーだと言われたそうです。制限速度60kmのところを190kmで走っていたのですが、本人が言うに

は200 km以上出していて、また、それはいつものことだったそうです。それまでは捕まらなかったのですが、友人は捕まった時に想定外だったと言いました。パトカー20台に通行止めされて、想定外も何もあるものかと言うと、友人はそのことではないんだと言いました。想定外だというのは、警察に行くのと同時に、病院へ連れて行かれたことで、制限速度を100キロ以上オーバーすると、精神異常者と見なされて病院へ連れて行かれるのだそうです。あまりいい例えではありませんが、私はその話を聞いた時に初めて、想定外という言葉を受けました。想定外というのは、当たり前のことか当たり前ではないといえるのかもしれませんが。

この新型コロナウイルスの感染拡大で、自由に食事や旅行に行ったりすることが出来なくなりました。こういう時に“ピンチをチャンスに”とか“後ろ向きを前向きに”とか、よく言われます。コップの水の話もよく出ます。コップの水が半分になった時、まだ半分もあるのかと有難く思うのと、もう半分しかないと思うのかでは大きく違うと言われます。しかし、これもあまりいい例えではありませんが、飲み屋さんの半分のお酒と、灼熱の砂漠の半分の水とを同じようには語れません。同じ水でも状況によっては大きく異なり、次元が違うとも言えます。今回も、自粛か経済が難しいところがありますが、常に悲観的にならずに、毎日の中で喜びを見つけて過ごしていくというのは、仏教の説かれることではありますが、なかなか難しいことでもあります。言うは易しです。何故かということが仏教に説かれます。世の中が近代化により複雑になることは、人の心を後退させるとお釈迦様は言われています。人の心の何が後退するのかということですが、一つは感謝の心と忍耐の心が欠けてくるということです。世の中が便利で豊かになってくると、我慢をすることも、有難さを見つけて暮らすことも難しいと説かれています。特に忍耐の心というのは、仏教では肝心事の一つとして説かれます。忍耐の心を持つ人は、自然と感謝の心が育まれていきます。後になって、あの時腹を立てなくてよかったと喜ぶことが多くあります。そうしてみると、忍耐の心というのは大切なことです。感謝の心で今日一日を暮らすということが仏教の根幹です。そのためにはどうするか。究極の感謝は、今日一日を喜んで暮らすということかもしれません。コロナ感染のことで信者さんがみえました。その方が言われたことは、ファンであったコメディアンの方が亡くなり、それまでは他人事のように思っていたのが、自分のことのように思ったそうです。面会もできず、お葬式も出せず、気がついたらお骨になって自宅に戻って来たという話です。一体、人の命は何だろうなと思います。それで思い出したのが、東北の大震災でした。あの時、私の身内から聞いた話です。友達の若いお母さんが、津波の被害の中から

助かりました。みんなから励まされ、ありがとうと言いました。しかし、そのありがとうはただのありがとうではありませんでした。聞いてみるとその方は、ご主人、おじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さん、そして3人の息子さん全員が亡くなり、自分一人だけが助かりました。その人に、励ましの言葉はどう響いたのかなと考えると、人の命とは何だろう、命の尊さとは何だろうと思います。仏教では命の次に大事なものはないと説かれますが、本当に私たちはそう思っているのか疑問です。私なんかは普通に生きていると思っています。そのお母さんにしてみれば、なんで私が助かったのかということです。私が死んで誰かが助かれればとか、一緒に死ねばとか、そんなふうにならなくて後から述懐してみえます。命というのは何だろうと申しましたが、命を担保にする人も世の中にはいます。私の命を捧げますから、この人を助けて下さいというのは命の担保です。自分の命というのは何よりも大事なのですが、その大事なものを捧げても違う人の命を助けたいと願う人の心、そうやって願う人もいるということを見ると、命の尊さというのは、いくら色んなことが思うようにならなくても、今日一日無事に命があったということに思いを馳せれば、大概のことは何とかなると思います。今の世の中に限らず私達のご先祖様には、思うようにならない世の中で色々な思いを残して旅立った人もたくさんおられると思います。その人たちの霊に報いるためにも、今日一日何とか喜びを見つけて暮らしていきたいと思えます。人、物、事に感謝するべきだと言われた方がいます。人に感謝というのは、好きな人、嫌いな人がいます。嫌いな人に感謝というのは難しいです。でも、嫌いな人のおかげで物事が成り立っているというのも世の中です。生きている人、亡くなった人、これから生まれる人にも感謝だろろうと思います。物に対する感謝は、目に見える物、或いは目に見えない物、好きな物、嫌いな物です。事に感謝というのは、出来事です。目の前で起きる全ての出来事、自分の思うようになる事も、ならない事も、それを悟りに変えて喜びとして過ごしていきたいものです。それが毎年巡ってくるお盆の大切な心だと思います。

今日はこうして皆さんと一緒に例会に参加させて頂き、ありがとうございました。